訓練 **弟子たち**

会期 **19:弟子選び(9b)**

ロン・ライブリー、M.Div.、M.A.による提供 – BiblicalMentoring.org(学問)

ステップ1:開会の祈り

ステップ2: 各人が記憶の節を引用します: ヴァース: **ヨハネ6:70-71**
70 イエスは答えた。「私は十二人を選ばなかったか？それでも一人は悪魔である。
71 彼はシモン・イスカリオテの息子ユダについて語った。
なぜなら、彼は十二人の一人であり、彼を裏切ろうとしていたからだ。

ステップ3: *聖書章の全部または一部を読んで議論してください* **– ヨハネ6章**

ステップ4: 個人申請やグループディスカッションのための質問:

一. フィリップスは、弟子となる可能性のある弟子と訓練のためにプレ・ディサイプルシップ関係を築き始めることを提案しています。なぜこれが重要なのか、その理由は二つあります。

二. なぜあなたの研修生が健康で機能する身体(教会)に関わらなければならないのか説明していただけますか?

三. 弟子修行者が霊的に自分を養うことがなぜ重要なのかを学びます。つまり、自分の魂への宣教師になることです。

四. あなたは個人的に、勉強、暗記、瞑想、祈り、礼拝(SMMPW)という五つの修行を実践していますか?

五. 著者は、弟子関係には献身と服従が含まれなければならないと言っています。弟子関係の目的は、自ら死んだ者が他者の中にキリストのような性格を再現できるように備えさせることであることを忘れないでください。

ステップ5: *本の内容を読んで議論してください:*
第9b章 著者による キース・フィリップス:

慎重に選ぶ

イエスは多くの中からほんの数人だけを選ぶことで、質の高い選びへの献身を示しました(ルカ6:13)。イエスと共にいたいと望む者には、できないと言われた者もいました(ルカ8:38-39)。自信過剰で、優先順位が間違っていたり、古い感情にしがみつく者は除外されました(ルカ9:57-62)。少数の個人に集中することで、イエスは自分を手薄くしすぎる誘惑に抗いました。弟子候補を見つけたと思ったら、弟子として招く前に弟子訓練前の関係を築きましょう。弟子前訓練とは、弟子候補に「神を喜ばせるために生きるべきであるべきだ」と訓練することです(テッサロニケ第一4:1 NIV)。この関係には二つの利点があります。それは霊的な幼少期から幼少期に至る成長を促し、彼の献身の深さを評価できるようにします。

弟子訓練前
エルサレムの初期の改宗者たちは「使徒たちの教えと交わり、パンを割り、祈りに絶えず献身し続けて育てられました」(使徒2:42)。|まず、あなたの弟子候補は健康で機能する体に組み込まれ、他者を見守ることでキリストのようになり、必要な交わり、愛、責任感を体験できるようにしなければなりません。

さらに、彼がキリスト教的な生活のためにしっかりとした基盤を築くよう励まさなければなりません。彼は「自分の根を[キリスト]に育ち、彼から養分を引き出す」必要があります..."(コロサイ人への手紙2:7 LB)。つまり、定期的な聖書の勉強、聖書の暗記、黙想、祈り、礼拝を通じて霊的に自分を養う準備が必要です。

これらの規律が彼の人生の一部となるように、それぞれの学問で彼と密接に協力しなければなりません。なぜ学び、暗記し、瞑想し、祈り、礼拝すべきかを伝えてください。聖書からこれらがいかに重要かを教え、あなたの経験を共有することでその価値を強調しましょう。これらの規律を実践することは律法主義ではなく、忠実であることを指摘してください。あなたがそれを実践する方法を一つか二つ共有して、その方法を示してください。一緒に実践を始めさせましょう。続けさせてください。あなたの模範は彼が忠実であろうと励まします。学び、実践している原則を定期的に共有しましょう。彼の質問に答えられるようにしてください。課題や実践的な日々の応用に対して彼に責任を持たせてください。あなたの学生があなたの促されずにこれらのキリスト教の基本に忠実に関わっているとき、あなたの弟子訓練前の関係は成功しています。

詳細な観察

弟子訓練前は、潜在的な弟子とより親しくなることを可能にします。彼の動機、教えの能力、神への献身を監視し、言葉だけでなく彼の人生に基づいて弟子を育てるかどうかを判断できます。弟子関係を始める前に、彼がキリスト教の基礎を生活に取り入れ、あなたが彼をよく知っていることが不可欠です。テモテ第一5章22節には「誰かに手を置きすぎてはならない」と警告されています。

イニシアチブを取ろう

もし神の霊があなたとあなたを支配する者たちに弟子関係に入ることを確かめてくださるなら、あなたが率先して行動しなければなりません。悔い改めない人間に対する神の憐れみによって、神は肉となり、私たちの中に住まわれました(ヨハネ1:14)。神は率先して行動を起こしました。キリストが弟子の働きを始めたとき、各弟子を個人的に呼びました(ヨハネ6:70)。

招待状を発行してください

多くの祈りと霊的指導者の助言の後、神が弟子としての誓いを招くよう導かれたことを、弟子候補に説明してください。彼の神を知りたいという熱意、従順な精神、忠実さ、弟子を作るビジョンは、神が他者を教えるための準備をしてくださっていることを示してください。あなたとの関係には多くの時間が必要であることを強調してください。週に少なくとも3時間は構造化された環境で集まります。彼は書面課題、暗記の節、定期的な聖書研究の責任を負います。この最低限の時間のコミットメントは事前に合意しなければなりません。そして彼が成長するにつれて、あなたとのミニストリーへの関わりが徐々に増していきます。彼は霊的成長を最優先と見なさなければなりません。成熟したクリスチャンとの一対一の関係が質の高い訓練を提供し、彼の個々のニーズを満たす方法を共有してください。あなたは彼の霊的成長に配慮したペースで進むため、彼はキリスト教の生活様式を徹底的に理解するでしょう。

関係性を説明してください

弟子関係の目的は、自分自身に死んだ者が他者の中にキリストのような性格を再現できるように備えさせることです。約束と服従がなければ、あなたの関係は弟子関係ではないと、弟子関係ではないと潜在的な弟子に説明してください。

コミットメント。

なぜお互いに献身しなければならないのかを彼に伝えてください。事前の相互の約束がなければ、苦しみの兆候が見えた瞬間に諦めたり、弱さの兆候に落胆してしまう可能性が高いことを説明してください。したがって、どんな代償を払っても神の御子の満ちたものへと成長するために共に契約を結びます。献身とは後戻りも境界線も制限もないことを意味します。

1975年、私はセントルイスからロサンゼルスへ飛んでいたとき、パイロットが爆弾が搭載されているという「深刻な脅威」を発表しました。私たちは緊急着陸し、直ちに避難するよう指示されました。ドアを押し開けると、細いスライドが自動的に飛行機から飛び出し、膨らみ始めました。それは地面と平行にまっすぐ飛び出しました。私は一瞬ためらい、飛び降りるのが怖かったが、それ以上に飛び降りないのが怖かった。滑り台が地面に着く前に、私は体をこのかろうじての出口

に投げ出した。言葉では表せない恐怖だった!しかし飛び降りた瞬間から、私は自分の決断に縛られていた。

神は揺るぎない忠実さを求められるため、弟子としての約束はその一歩と同じくらい拘束力があります。この約束を交わした一度、二人ともそれに縛られることを弟子候補に肯定してください。彼がつまずいた時もあなたの誓いは揺るがないことを彼に保証してください。彼があなたの導きを見守り、聞き、従い、応えることにコミットしなければ、キリストにあって成人できないと説明してください。お互いへの無条件の献身こそが、あなたたちの関係の基盤です。

服従。
なぜ彼が神が授けた権威を与えて子孫を訓練するあなたに服従しなければならないのか、その理由を教えてください。彼の服従は極めて重要です。なぜなら、それがなければあなたは彼に対して権威を行使できないからです。キリストは弟子たちを呼びましたが、訓練を始める前に、彼らは彼に従う必要がありました。あなたの関係が明確に定義され、潜在的な弟子がそれぞれの役割を理解していることを必ず確認してください。彼は、あなたが教育やスキルではなく、献身と人格によってリーダーであることを知る必要があります。リーダーは、あなたが積極的に彼らに服従することがリーダーシップの資格であることを彼に説明すべきです。これにより、関係が正しい方向に進み、あなたの権威を確立する助けとなります。

あなたの弟子候補は喜びに満ちた服従を誓わなければなりません。ヘブル人への手紙13章17節にはこうあります。「あなたの指導者に従い、彼らに服従しなさい。彼らはあなたの魂を見守り、それは説明をする者のように見守るのです。悲しみではなく喜びをもってこれを行わせなさい。それはあなたにとって無益だからです。」弟子が喜んで従わなければ、指導者はどうして喜びを感じられるでしょうか?将来の弟子に、あなたが神に責任を持ち、彼のキリスト教の歩みを導き、彼の幸福を見守っていることの慰めがあることを伝えてください。何よりも、服従とは信頼を意味します。最近、薬物や犯罪から劇的に転向した若者が、私たちのミニストリーを通じて全国テレビで証を述べる機会がありました。私はその時は彼にそれをしないよう助言しました。状況がその場で彼に助言の理由を説明することはできませんでした。ただ彼に信頼を求めただけです。彼がすぐに同意したとき、服従へのコミットメントがあったので、私にとってはどれほど喜びでしたか。後に私は、誇りの危険性や、公の場に早すぎる暴露前に新しい人生を「生きる」ことの重要性を彼に伝えることができました。あなたの弟子候補に、彼の服従が神の御心を見つけるための安心感をもたらすと説明してください。なぜなら、彼はあなたの助言を求める機会があるからです。もし答えがわからなければ、指導者に尋ねると、意見ではなく権威ある返答をもらえると彼に安心させてください。"...多くの助言者の中に安全がある」(箴言24:6 KJV)。

90-94ページ

***ステップ6:** 個人的な祈りの願いを共有し、それぞれがお互いの願いを祈り合います。*

出典:キース・フィリップス博士著『The Making of a Disciple』。フレミング・H・レヴェル社出版、1981年。ISBN 0-8007-1181-5。ロバート・E・コールマンによる序文。内容(勉強問題を除く)は本書から抜粋し、改訂は加えていない。

改訂20261012